

日本繊維機械学会繊維リサイクル技術研究会など 繊維廃材を使った製品を展示販売

2023年09月06日更新

この記事を保存

ツイート

B!ブックマーク 0

シェアする 0



廃棄予定の材料から制作した商品を販売

日本繊維機械学会繊維リサイクル技術研究会「私たちのSDGs。実行委員会などは8月29日～9月4日、なんばマルイ（大阪市）で「私たちのSDGs～繊維製品の循環をめざして～パート2」を開催した。

会場では、8月23日に京都文化博物館別館で開催したショーで披露したアップサイクル製品の展示販売や、帝人やクラボウ、ワコールなどの企業8社によるアップサイクル品の展示などをした。1日には企業展示担当者による「わが社のアップサイクル戦略」と題したトークショーを開いた。

ワコールは宝塚歌劇団への残レース提供やリサイクルハンガーの取り組み、有機栽培綿や和紙などを使った「ナチュレクチュール」などについて解説。多様な杣糸を主力とする新内外綿は、生産工場が発生し廃棄されていた裁断くずや残糸、C反などを反毛して再び糸にする「彩生」を紹介した。繊維くず本来の色を生かし、バージンのわたと混ぜ、杣糸として再生することで、染色で使う水やエネルギーの量を抑え、CO2（二酸化炭素）の削減につながると語った。

2日には学生らによるトークショー「私たちのアップサイクル」や、3日は繊維廃材をアップサイクルしたレザーを使いショルダーバッグを作るワークショップも実施した。